

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 飛驒古城特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年1月28日(水) 9:30~11:30
- 3 開催場所 飛驒古城特別支援学校 多目的室
- 4 参加者
 

会 長	田中さおり	PTA会長
副会長	中口 守	地域代表(青龍会会長)
委 員	山下 拓也	地域代表(殿町22区区长)
	青木 陽子	地域生活安心支援センター長
	奈木 桂子	福祉事業所理事長
	蓑輪 一幸	卒業生保護者代表
	上口 淳	古川小学校長
	山腰 邦彦	古城福祉会事務局長
学 校 側	長瀬 朋彦	校長 (欠席)
	道下亜紀子	教頭
	和仁 崇幸	事務長
	島ノ上麻美	小・中学部主事
	小澤 耕	高等部主事
	中田 健太	教務主任

## 5 会議の概要(協議事項)

## (1) 今年度の取組み「つながる!飛驒古城」について

意見1: 自傷行為をしてしまう児童生徒の行動にも必ず理由がある。現場の状況等を十分に理解した上で、医療や作業療法士等と連携を図りながら評価をしていくことが大切である。

意見2: 地域の行事に児童生徒が参加できるようになるには、PTAと地域の団体が連携を図ることで実現できるのではないかと。

意見3: 特別支援学校のことをよく知らない人もいる。事前に児童生徒の特性やかかわり方を教えてもらえるとよい。

意見4: 卒業後の生活の場としてグループホームがあるが、本人や保護者の希望と、実際に生活ができるのかどうか本人の実態とが合わないことがある。そこで、本人の実態把握や評価に活用できるよう、日常生活チェックシートを作成しているところだが、そのシートを学校とも共有しながらすすめていけるとよい。

意見5: 小学校では、作業療法士の助言によって児童への理解がより深まることで、早い段階からの適切な支援につながっている。専門家との連携を図れるとよい。

(2) 今年度の教育実践の反省と来年度に向けて

- 意見 1 : 市への相談者の中には、仕事はできても休み時間の使い方に難しさを感じている人がいる。部を超えた児童生徒同士のかかわりについての実践において、余暇や自由時間の過ごし方を考えた取組みをしているのはよい。
- 意見 2 : 場の状況を読む力や人とのコミュニケーションの図り方など、子どもの成長をととも感じている。当校のよさをより広く知ってもらいたい。
- 意見 3 : 卒業後に児童生徒がどのような生活をしていくのかを知っておくのは大切である。初任者研修や進路研修等で事業所を見学する機会を設けるのはどうか。
- 意見 4 : 交流籍交流での課題とは具体的に何か。  
⇒同じクラスの児童生徒間で、交流籍校によって交流回数が異なったため、保護者からもっと交流をしたいという要望があった。今後は、年度初めに行う保護者の要望の確認や相手校との打ち合わせをより丁寧に行うようにする。
- 意見 5 : 作業することによって報酬を得るという経験を積むことは、お金をどう使うかという学習も含めて、生徒の活動意欲にもつながっていくのではないか。

(3) 高等部生徒・職員による作業製品及び新製品の説明について

- 意見 1 : 高等部の作業製品販売会で購入したものは、地域の行事で使用しているが、とてもよい製品なので今後も購入したい。地域の行事で使用する器を新製品にできないか検討してほしい。
- 意見 2 : いろいろな色を使った窯業製品があるが、水玉などの柄もあるとよい。
- 意見 3 : 新しい作業種の開発も、生徒の特性に合わせてよく考えられている。
- 意見 4 : 新しい作業種のシルクスクリーンは、デザインのオリジナリティも出て興味をもてる。製品化に向けてがんばってほしい。
- 意見 5 : 買い手のニーズを収集して、買い手のことを考えて丁寧に作っている製品だからこそ質のよい製品ができている。

6 会議のまとめ

- ・第3回学校運営協議会では、テーマに沿った今年度の取組み及び今年度の教育実践の反省と来年度に向けた取組みについて承認を得られた。
- ・来年度に向けて、高等部作業製品の原材料の価格高騰により製品価格の見直しをすることや、新たな作業種から製品化を検討していることについて承認を得られた。